

発掘が終わり「宮山遺跡」の全貌がいよいよ明らかになり！

阿蘇市教育委員会では、阿蘇西小学校の体育館建設に伴い、平成17年度から平成18年度にかけ、建設予定地や道路拡幅予定地内の「宮山遺跡」(赤水地区)の発掘調査を行いました。

調査では約1千8百年～1千6百年前の弥生時代から古墳時代にかけての大量の土器や石器などとともに、たくさんの方の家や墓の跡などが発見されました。

これから数回に分けて発掘調査や整理作業で判明した成果をもとに、阿蘇の古代を現す「宮山遺跡」を詳しく解説していきます。

第1話目は、「阿蘇谷は湖で人はいなかった？」です。

「阿蘇谷は湖だった」という伝説から、阿蘇に人は住んでいなかったのではないかとよく耳にします。しかし、阿蘇市は県内でも有数の遺跡(*)の宝庫で、古くは約2万5千年前の旧石器時代から外輪山上に人が住み始め、約2千年前の弥生時代には現在の集落とほぼ同じ所に遺跡が見られます。時代と共に人々の生活の場が外輪山から平野へと移って行くのは、次第に阿蘇谷の自然環境が変化していったことと、水田経営



発掘調査風景

が関係するものではないかというところが発掘調査によって分かっています。このように、発掘調査は「昔の生活のようすを探ること」が、主な目的です。人々が「いつの

時代に」「どこで」「どのように」くらし てきたかを地層や遺物(*)、遺構(*) などから考古学的に検証する調査です。近年では、自然科学や環境考古学といった科学分析法の進歩により、当時の食べ物や周りにどのような植物があったのか、またそれらが具体的に何年前のモノかな ど色々な角度で遺跡を検証することが可能になっています。

発掘調査により、昔のくらしの特徴は、自然の恵みと人間本来の知恵を活かし、その土地にあつた食生活や道具など創意工夫を凝らしながら生活していたことが分かっていきます。

このように遺跡は地域の歴史と文化の成り立ちを明らかにする上で大変貴重であり、その場所にしかない地域の財産なのです。人々のくらしが豊かになった現代であるからこそ「くらしの原点」である「自然と人間の調和」を改めて見直すことが必要なのではないでしょうか。

※「遺跡」というのは地中に眠る私たちの祖先が生活してきた「あと」のことです。人々の生活のあとが残る場所を「遺跡」といい、生活用品を「遺物」、家やお墓などの施設を「遺構」と呼んでいます。

さて、遺跡は一度壊れてしまえば二度と元に戻すことができません。地中に埋もれたそのままの状態では保存できればよいのですが、土木工事などによって遺跡が壊れてしまうこともあります。遺跡を守ることも大事なことです。私たちが生活していくために建物や道路などをつくることも必要です。どうしてもそのままの状態では守っていくことができない遺跡を写真や図面や写真などで詳しく記録し、末永く後世に残していくことが私たちの責務であると言えます。

現在、市では「宮山遺跡」の調査の結果をまとめる整理作業を旧役犬原小学校の二階で行っています。たくさんの方の発見がありますので魅力ある「阿蘇の古代ロマン」をこれから皆さんにお届けしていきます。



旧役犬原小学校での整理作業風景